

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年1月12日

【四半期会計期間】 第82期第3四半期(自平成29年9月1日至平成29年11月30日)

【会社名】 岡谷鋼機株式会社

【英訳名】 O K A Y A & C O . , L T D .

【代表者の役職氏名】 取締役社長 岡 谷 篤 一

【本店の所在の場所】 名古屋市中区栄二丁目4番18号

【電話番号】 (052)204-8141

【事務連絡者氏名】 取締役経理本部長 河 村 元 志

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号丸の内中央ビル13階

【電話番号】 (03)3215-7792

【事務連絡者氏名】 東京本店経理部長 白 鳥 堅 治

【縦覧に供する場所】 岡谷鋼機株式会社東京本店
(東京都千代田区丸の内一丁目9番1号丸の内中央ビル13階)

岡谷鋼機株式会社大阪店
(大阪市西区新町一丁目27番5号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第81期 第3四半期 連結累計期間	第82期 第3四半期 連結累計期間	第81期
会計期間	自 平成28年3月1日 至 平成28年11月30日	自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日	自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日
売上高 (百万円)	542,201	618,936	753,311
経常利益 (百万円)	13,010	16,809	18,058
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	8,577	11,729	11,611
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	17,730	23,613	28,535
純資産額 (百万円)	173,605	206,040	184,427
総資産額 (百万円)	429,275	489,204	446,726
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	890.88	1,218.29	1,206.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.5	40.2	39.3

回次	第81期 第3四半期 連結会計期間	第82期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年9月1日 至 平成28年11月30日	自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	321.08	441.58

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当企業集団が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は、以下のとおりです。

(生活産業)

第2四半期連結会計期間において、岡谷サービス株式会社(連結子会社)が、岡谷ホームズ株式会社(連結子会社)を会社分割方式で承継することにより、今後成長が見込める不動産事業の強化及びグループの経営合理化を図っております。なお、承継会社の社名を「岡谷サービス&ホームズ株式会社」に変更しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、堅調な米国経済に加え、中国及び新興国経済が底堅く推移し、緩やかな成長が持続しました。

日本経済は、輸出と設備投資の伸びなどで製造業の生産活動が高水準を維持し、堅調に推移しました。

このような状況下において、当第3四半期連結累計期間における売上高は、6,189億36百万円で前年同期比14.2%の増収となりました。

損益につきましては、売上総利益が434億43百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益が131億56百万円（前年同期比29.5%増）、経常利益が168億9百万円（前年同期比29.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は117億29百万円（前年同期比36.7%増）となりました。

これを事業のセグメント別に見ますと、次のとおりであります。

(鉄鋼)

鉄鋼部門は、鋼材価格の回復に加え、土木・建築、製造業向けで数量を伸ばし、好調でした。

特殊鋼部門は、建機等の産業機械や自動車の生産が国内外で回復し、好調でした。

海外は、鋼材価格の回復に加え、北米及びアジア地区における販売が伸びました。

鉄鋼セグメントの売上高は2,567億23百万円（前年同期比19.3%増）、営業利益は43億46百万円（前年同期比35.5%増）となりました。

(情報・電機)

非鉄金属部門は、原材料価格の上昇に加え、電子部材や自動車関連を中心に国内外で需要が伸び、好調でした。

エレクトロニクス部門は、通信機器関連が減少しましたが、FA関連や自動車関連が増加し、堅調でした。

情報・電機セグメントの売上高は1,356億70百万円（前年同期比17.6%増）、営業利益は31億23百万円（前年同期比41.5%増）となりました。

(産業資材)

化成品部門は、樹脂原材料価格の上昇に加え、自動車関連などで数量を伸ばし、好調でした。

メカトロ部門は、設備の輸出が落ち込みましたが、国内は航空機関連をはじめ、設備機械や部品・工具が伸び、順調でした。

産業資材セグメントの売上高は1,851億77百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は48億22百万円（前年同期比23.1%増）となりました。

(生活産業)

配管建設部門は、分譲マンションの販売が増加しましたが、建築物件の請負工事が減少、またガス関連資材が軟調に推移し、横ばいでした。

食品部門は、水産物の輸入が落ち込みましたが、鶏肉・鶏肉加工品等の販売が増加し、順調でした。

生活産業セグメントの売上高は413億65百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は15億76百万円（前年同期比39.1%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は4,892億4百万円となり、株式市況の好調に伴う投資有価証券評価額の増加などにより前連結会計年度末に比べて424億78百万円増加しました。

負債は2,831億64百万円となり、仕入債務の増加などにより前連結会計年度末に比べて208億65百万円増加しました。

純資産は2,060億40百万円となり、その他有価証券評価差額金の増加や利益剰余金の増加などにより前連結会計年度末に比べて216億12百万円増加しました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

特記事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,571,200
計	35,571,200

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年1月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,720,000	9,720,000	名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	9,720,000	9,720,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年9月1日～ 平成29年11月30日		9,720,000		9,128		7,798

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が把握できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年8月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 86,000	-	-
	（相互保有株式） 普通株式 17,400		
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,607,800	96,078	-
単元未満株式	普通株式 8,800	-	-
発行済株式総数	9,720,000	-	-
総株主の議決権	-	96,078	-

【自己株式等】

平成29年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有 株式数の割合(%)
（自己保有株式） 岡谷鋼機株式会社	名古屋市中区栄 二丁目4番18号	86,000	-	86,000	0.88
（相互保有株式） テツソー物流 株式会社	東京都江東区 塩浜一丁目1番20号	17,400	-	17,400	0.17
計	-	103,400	-	103,400	1.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年9月1日から平成29年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年3月1日から平成29年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,627	13,640
受取手形及び売掛金	164,740	172,924
電子記録債権	23,137	27,744
商品及び製品	43,199	51,592
仕掛品	4,530	7,788
原材料及び貯蔵品	1,496	1,582
その他	9,186	10,206
貸倒引当金	553	555
流動資産合計	258,364	284,923
固定資産		
有形固定資産	40,215	39,496
無形固定資産	1,292	1,226
投資その他の資産		
投資有価証券	128,404	144,248
その他	18,735	19,592
貸倒引当金	286	281
投資その他の資産合計	146,853	163,559
固定資産合計	188,361	204,281
資産合計	446,726	489,204

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	88,928	99,303
電子記録債務	17,754	17,416
短期借入金	87,842	94,796
未払法人税等	2,668	1,740
賞与引当金	1,224	2,288
その他	9,687	13,400
流動負債合計	208,105	228,945
固定負債		
長期借入金	19,089	14,592
繰延税金負債	29,181	33,618
役員退職慰労引当金	759	754
退職給付に係る負債	1,738	1,796
その他	3,423	3,455
固定負債合計	54,192	54,218
負債合計	262,298	283,164
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,128	9,128
資本剰余金	7,798	7,798
利益剰余金	101,345	111,341
自己株式	455	457
株主資本合計	117,817	127,810
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56,771	66,972
繰延ヘッジ損益	49	19
為替換算調整勘定	150	438
退職給付に係る調整累計額	1,267	1,677
その他の包括利益累計額合計	57,837	69,068
非支配株主持分	8,772	9,160
純資産合計	184,427	206,040
負債純資産合計	446,726	489,204

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	542,201	618,936
売上原価	503,577	575,493
売上総利益	38,623	43,443
販売費及び一般管理費	28,463	30,286
営業利益	10,160	13,156
営業外収益		
受取利息	960	1,036
受取配当金	2,406	2,772
持分法による投資利益	724	819
その他	638	511
営業外収益合計	4,729	5,140
営業外費用		
支払利息	984	1,210
手形売却損	17	15
その他	877	261
営業外費用合計	1,879	1,486
経常利益	13,010	16,809
特別利益		
固定資産売却益	20	14
投資有価証券売却益	0	0
その他	0	-
特別利益合計	21	14
特別損失		
固定資産処分損	23	15
減損損失	114	-
投資有価証券評価損	-	22
退職給付費用	-	47
その他	9	0
特別損失合計	146	86
税金等調整前四半期純利益	12,884	16,738
法人税、住民税及び事業税	4,335	5,083
法人税等調整額	421	650
法人税等合計	3,914	4,432
四半期純利益	8,970	12,306
非支配株主に帰属する四半期純利益	393	576
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,577	11,729

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	8,970	12,306
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,670	10,255
繰延ヘッジ損益	47	30
為替換算調整勘定	3,353	411
退職給付に係る調整額	285	412
持分法適用会社に対する持分相当額	890	196
その他の包括利益合計	8,760	11,306
四半期包括利益	17,730	23,613
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,537	22,960
非支配株主に係る四半期包括利益	193	652

【注記事項】

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成29年2月28日)		当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)	
マキシマファーム株式会社	400百万円	南通虹岡鑄鋼有限公司	974百万円
南通虹岡鑄鋼有限公司	245百万円	マキシマファーム株式会社	400百万円
上海三国精密機械有限公司	82百万円	上海三国精密機械有限公司	158百万円
合計	727百万円	合計	1,533百万円

(注)上記のうち、印は関連会社であります。

2 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
受取手形割引高	659百万円	623百万円
受取手形裏書譲渡高	558百万円	499百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
減価償却費	2,678百万円	2,741百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月20日 定時株主総会	普通株式	818	85	平成28年2月29日	平成28年5月23日	利益剰余金
平成28年9月30日 取締役会	普通株式	818	85	平成28年8月31日	平成28年10月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月25日 定時株主総会	普通株式	867	90	平成29年2月28日	平成29年5月26日	利益剰余金
平成29年9月29日 取締役会	普通株式	867	90	平成29年8月31日	平成29年10月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	鉄鋼	情報・電機	産業資材	生活産業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	215,204	115,390	171,063	40,542	542,201	-	542,201
セグメント間の内部売上高 又は振替高	604	1,323	561	1,002	3,491	3,491	-
計	215,809	116,713	171,625	41,544	545,692	3,491	542,201
セグメント利益	3,208	2,207	3,917	1,132	10,465	305	10,160

(注)1. セグメント利益の調整額 305百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	鉄鋼	情報・電機	産業資材	生活産業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	256,723	135,670	185,177	41,365	618,936	-	618,936
セグメント間の内部売上高 又は振替高	712	1,454	409	1,164	3,740	3,740	-
計	257,435	137,124	185,586	42,530	622,677	3,740	618,936
セグメント利益	4,346	3,123	4,822	1,576	13,868	712	13,156

(注)1. セグメント利益の調整額 712百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
1株当たり四半期純利益金額	890円88銭	1,218円29銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	8,577	11,729
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	8,577	11,729
普通株式の期中平均株式数(株)	9,628,242	9,627,974
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの 概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第82期(平成29年3月1日から平成30年2月28日まで)中間配当については、平成29年9月29日開催の取締役会において、平成29年8月31日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	867百万円
1株当たりの中間配当金	90円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年10月31日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 1月12日

岡谷鋼機株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松 本 千 佳 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 奥 谷 浩 之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 時 々 輪 彰 久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている岡谷鋼機株式会社の平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年9月1日から平成29年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、岡谷鋼機株式会社及び連結子会社の平成29年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。